

十輪寺

815 年、僧侶の弘法大師が日本から中国へ旅行した際、航海の安全を地蔵菩薩に祈願し、靈感を得ました。帰国後時の勅令により国家鎮護と海上航行安全の祈願所として十輪寺ほか七寺を建立しました。

十輪寺の正門にある仁王門は、江戸時代(1603 年～1867 年)の様式で建てられています。2 体の仁王像は、日本の山門の両側によく見られ、霊的および物質的な脅威から財産を守ると言われています。

本堂は高砂最大の木造建築物です。仏画は 2 点収録されており、1 点は絹本に描かれた「絹本着色御仏尊像」と呼ばれる重要文化財です。もう 1 つは、県指定文化財「阿弥陀来迎図」で、魂を極楽に迎えていると言われている光と生命の天仏である阿弥陀如来を描いたものです。